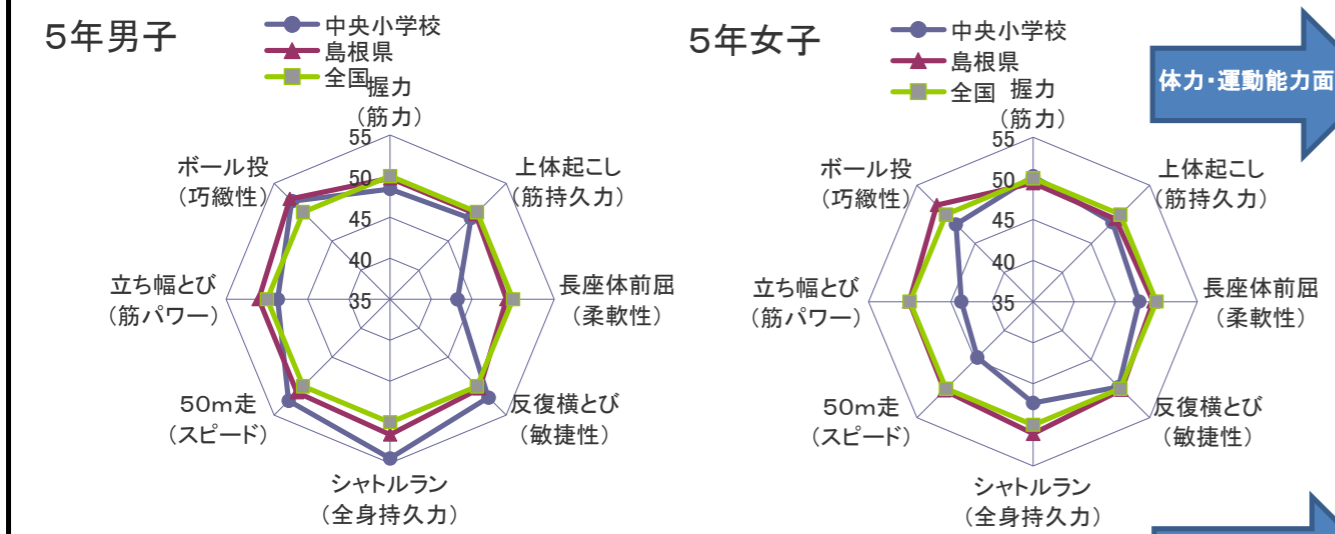
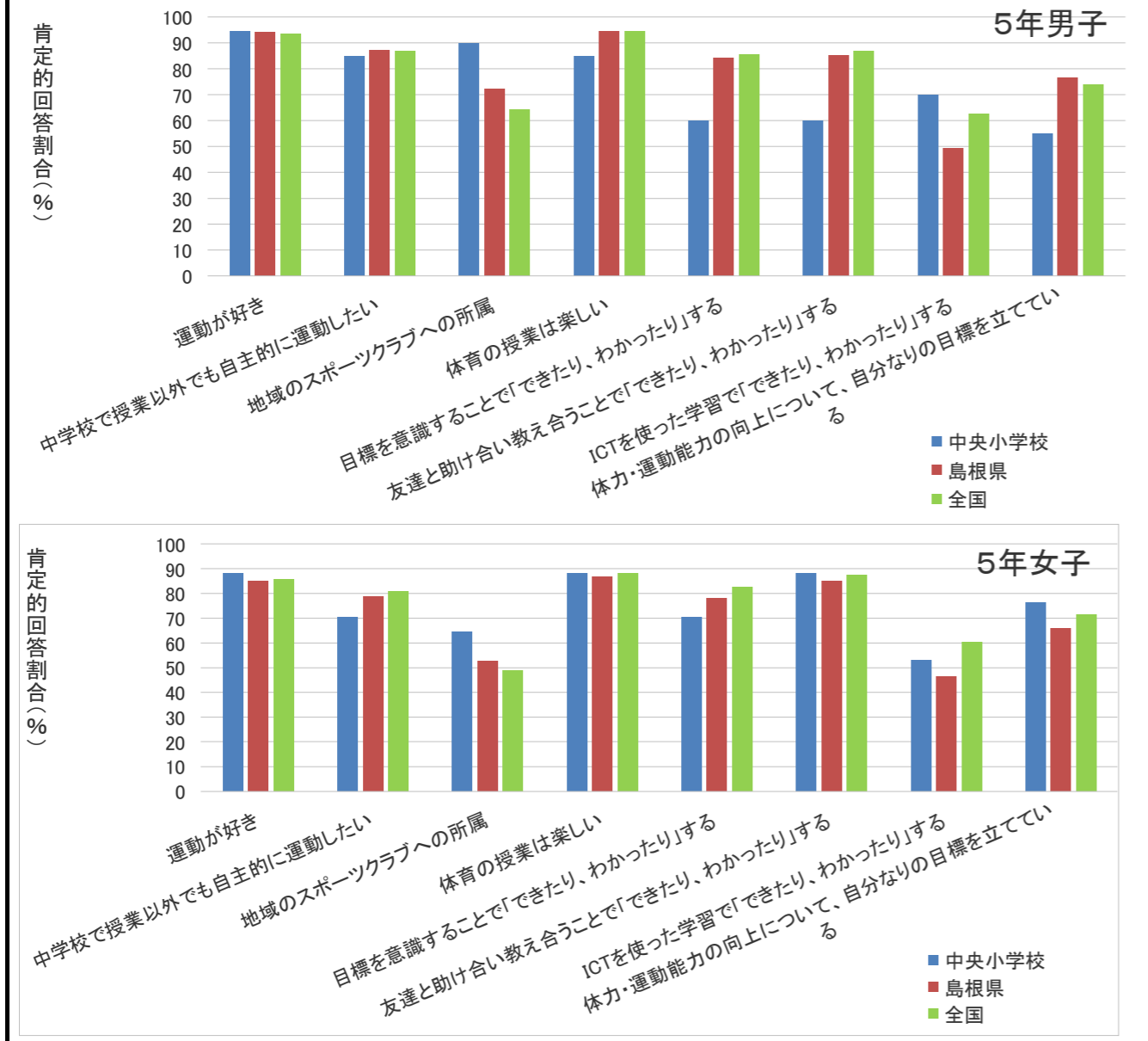


(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	-1.6	-1.1	-6.8	2.0	4.4	2.5	-1.3	1.9
女子	0.3	-1.4	-2.1	-0.3	-2.7	-5.4	-6.3	-1.7

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている
男子	1.3	-1.9	25.6	-9.6	-25.6	-26.8	7.4	-18.9
女子	2.5	-10.0	15.9	0.1	-12.0	0.8	-7.2	5.2

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】
弱み ← → 強み

(3) 令和8年度の方針【学校全体での取組】

(1) 授業の改善・工夫

- ・今年度、課題であった「走力、持久力」の基礎能力が向上した。理由として、校庭に継続的にラインを引くなど学習環境を整えることで体育、休み時間等で走る機会を増やすことができたことが挙げられる。来年度も引き続き学習環境を整えていく。
- ・鉄棒の取組については、補助具を用いることで体育や休み時間など鉄棒をしようとするこどもの姿が見られ、来年度も同様の取り組みを行っていく。
- ・全学年通じて「俊敏性」「柔軟性」に課題があった。年間を通じてウォーミングアップの際に俊敏性や柔軟性の向上につながる運動あそびなどを行う必要がある。
- ・4年生の逆上がりの達成率が昨年度の県平均を下回った。昼休みなど学習以外の時間に練習を行い、中央っ子サーキットで多様な動きや柔軟性を身につけ、チャレンジカード(鉄棒)を行い日常的に鉄棒に触れる習慣をつけるようにする。

(2) 授業以外の取組

- ・年間2回のちゅうオリンピックを行い、競技時間や種目数を増やし運動や遊びに興味をもつ児童が増えた。来年度も引き続き取り組んでいく。
- ・今年度は、チャレンジカード名人達成率が昨年度同様に低い結果であった。委員会と連携して高学年がチャレンジカードの認定の手伝いをしたり、教えたりする機会を設け、意欲的な姿が見られたため、来年度も引き続き行い、体力向上に活かしていく。

(3) 環境の工夫

- ・今年度、体育イベントの実施により、外や体育館で遊ぶ児童を増やすことができたため、この取り組みを来年度も続けていく。
- ・来年度は、1学期始めから昨年の体力テストをもとに分析し、授業の中でできる敏捷性や柔軟性を高める簡単な運動を発信していき、学習環境を整えていきたい。